

病害虫発生予察情報 第5号

富山県農林水産総合技術センター所長

8月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稻	いもち病（穂いもち）	やや少ない	—	野菜	白ねぎのさび病	やや少ない	—
	紋枯病	少ない	—		白ねぎの黒斑病・葉枯病	並	—
	ごま葉枯病	多い	—		白ねぎのネギアザミウマ	並	—
	斑点米カメムシ類				白ねぎのネギハモグリバエ	少ない	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	並	—		白ねぎのシロイチモジヨトウ	やや多い	—
	アカスジカスミカメ	並	—		アブラムシ類	少ない	—
	トゲシラホシカメムシ	やや多い	—		ネキリムシ類	やや少ない	—
	クモヘリカメムシ	やや多い	—		果樹	果樹のカメムシ類	並
	ニカメイガ（第2世代）	並	—	リンゴの褐斑病		並	—
	ツマグロヨコバイ	並	—	リンゴの斑点落葉病		少ない	—
	ヒメトビウンカ	並	—	リンゴのハダニ類		多い	—
	セジロウンカ	やや少ない	—	リンゴのカイガラムシ類（ナシマルカイガラムシ）		並	—
	トビイロウンカ	並	並	ニホンナシの黒星病		やや多い	—
	コブノメイガ	並	並	ニホンナシのナシヒメシンクイ		並	—
大豆	葉焼病	並	—	ニホンナシのカイガラムシ類（ナシマルカイガラムシ）		並	—
	紫斑病	並	—	ニホンナシのハダニ類		多い	—
	ウコンノメイガ	やや多い	—	ブドウのべと病		並	—
	フタスジヒメハムシ	やや多い	—	カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	並	—	
	アブラムシ類	並	—	モモのモモハモグリガ	少ない	—	
	ハスモンヨトウ	やや少ない	—	モモのナシヒメシンクイ	並	—	
	大豆カメムシ類	やや多い	—	花き 球根	きくの黒斑病・褐斑病	少ない	—
	ハダニ類	多い	—		アブラムシ類	少ない	—
			タバコガ類		少ない	—	
			ネキリムシ類		やや少ない	—	

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
 TEL 076-429-2111 FAX 076-429-7974
 参照URL : <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

I 水 稲

1 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月20日調査の葉いもち発病株率は0%で、平年（0.0%）並に低く、8月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 防除指針 31～32 ページ参照

2 紋枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月20日調査の発病株率は0.7%で、平年（1.5%）より低かった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 28～29ページ参照

3 ごま葉枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 近年の発生が多い。
- ・ 8月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ 適切な水管理の励行等により稲体活力の維持に努める。
- ・ 防除指針 33 ページ参照

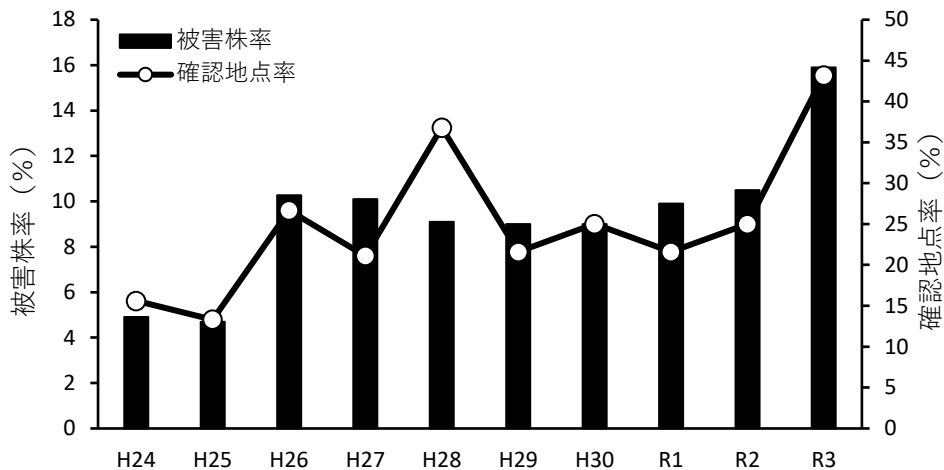


図1 ごま葉枯病の被害株率の年次推移(9月5日調査)

4 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は1.7頭で、平年（3.4頭）より少なく、確認地点率は49%で平年（48%）並であったが、8月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行く。
- ・斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。
- ・コシヒカリ等の中生品種および晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。
- ・防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。
- ・近隣に雑草地や麦あと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなるので防除を徹底する。
- ・散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。
- ・防除指針 41～42ページ参照

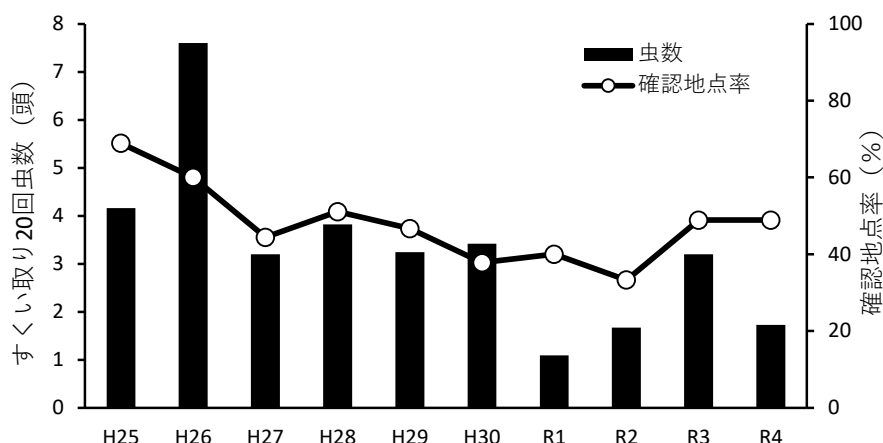


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

5 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.6頭で、平年（1.8頭）より少なく、確認地点率は20%で、平年（24%）並であったが、8月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 41～42ページ参照

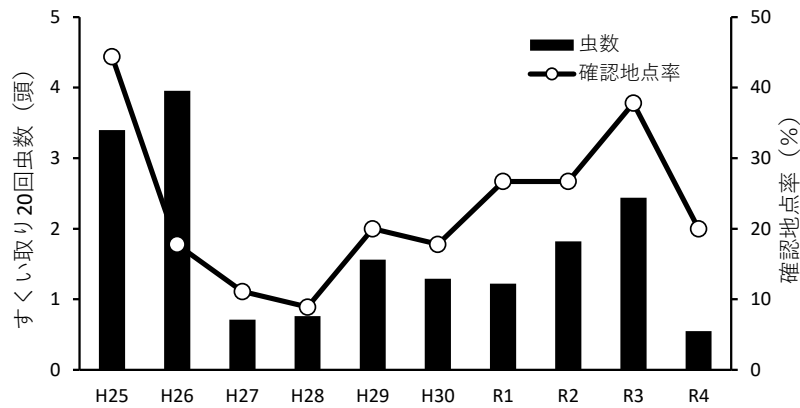


図3 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

6 斑点米カメムシ類 (トゲシラホシカメムシ)

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
 (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.20頭で、平年(0.16頭)よりやや多く、確認地点率も16%で平年(11%)より高かった。

- (3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 42ページ参照

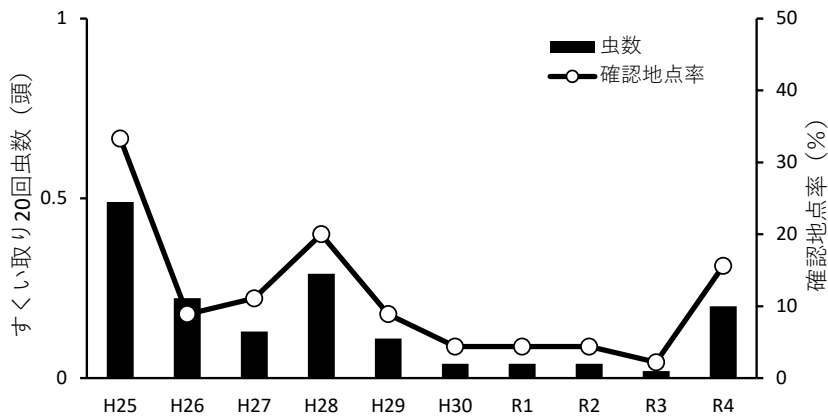


図4 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

7 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ)

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
 (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.09頭で、平年(0.02頭)よりやや多く、確認地点率も9%で平年(1%)より高かった。

- (3) 防除対策

- ・クモヘリカメムシは成虫及び水田内で孵化した幼虫が登熟初期から後期まで稲穂を吸汁加害する。割刈がなくても被害が生じるので、発生の多い地域では品種にかかわらず穂揃期と傾穂期の2回防除を行う。
- ・散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は追加防除を実施する。

- ・防除薬剤はカスミカメムシ類に準じ残効性の高い薬剤が有効である。
- ・防除指針 41～43ページ参照

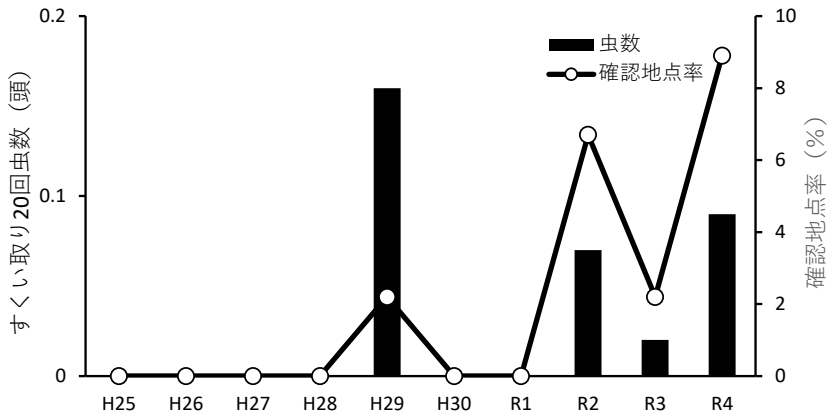


図5 クモヘリカメムシの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

8 ニカメイガ (第2世代)

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・7月20日調査の被害株率は0.8%で、平年(0.9%)並であった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 36～37ページ参照

9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・7月20日調査のすくい取り虫数は1.3頭で、平年(1.0頭)並であった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 38ページ参照

10 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・7月20日調査の本田すくい取り虫数は2.9頭で、平年(2.3頭)並であった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 39～40ページ参照

11 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・7月20日調査の本田すくい取り虫数は0.2頭で、平年(1.1頭)よりやや少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 39～40ページ参照

1 2 トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在、発生は確認されていない（平年の初発は8月7日）。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 39～40ページ参照

1 3 コブノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在、発生は確認されていない（平年の初発は8月3日）。
- (3) 防除対策
 - ・晩植田で多発することが多いので注意する。
 - ・防除指針 40ページ参照

II 大豆

1 葉焼病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・8月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 54ページ参照

2 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・8月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・2回の基本防除（8月2～3半旬と4～5半旬）を徹底する。
 - ・防除指針 53ページ参照

3 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - 【多発要因】
 - ・7月25日調査の被害株率は18.2%で、平年（14.5%）よりやや高かった。
- (3) 防除対策
 - ・播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
 - ・幼虫による葉巻の発生量を確認し、防除が必要であれば、8月上旬まで（若・中

齢幼虫期)に遅れず実施する。

- ・防除指針 54 ページ参照

4 フタスジヒメハムシ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7月25日調査の払落虫数(1条1.8m間)は0.12頭で、平年(0.02頭)よりやや多かった。

(3) 防除対策

- ・ 払落調査を行い、ほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期に防除する。
- ・ 防除指針 56 ページ参照

5 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 7月25日調査の寄生株率は0.4%で、平年(0.4%)並であった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 55 ページ参照

6 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ フェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数は84.7頭で、平年(95.4頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 56 ページ参照

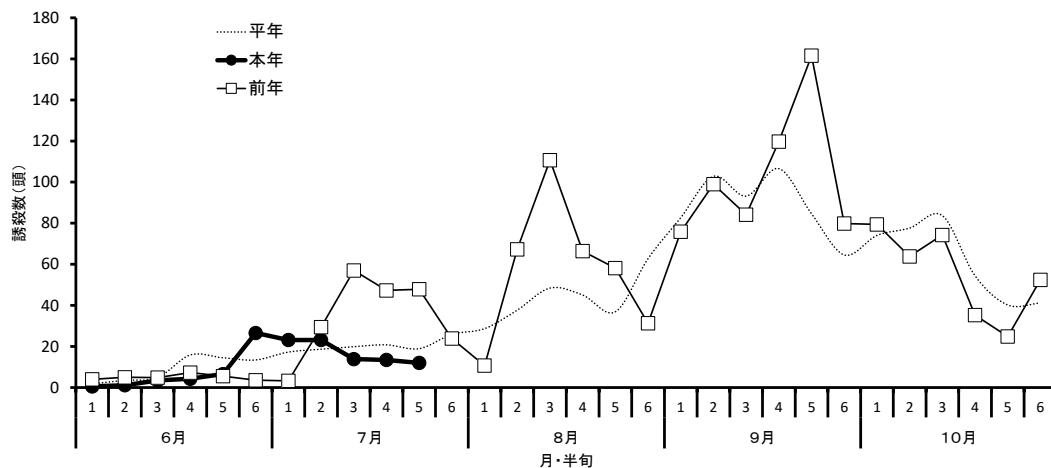


図6 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

7 大豆カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・ 7月25日調査の払落虫数（1条1.8m間）は0.11頭で、平年（0.04頭）よりやや多かった。

(3) 防除対策

・ 成虫侵入期の8月中旬頃（莢伸長期）と成虫侵入盛期から2週間後の8月下旬（子実肥大期）の防除を徹底する。

・ 多発が懸念されるほ場では発生状況に応じて追加防除を行う。

・ 防除指針 55 ページ参照

8 ハダニ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・ 7月25日調査の寄生株率は7.3%で、平年(1.7%)より高かった。

(3) 防除対策

・ 発生がみられたら薬剤防除を実施する。その際、薬剤が確実に葉の裏にかかるよう留意する。

・ 防除指針 54 ページ参照

Ⅲ 野菜

1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 7月25日調査の発病株率は12.0%で、平年（15.9%）よりやや低かった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 98 ページ参照

2 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・ 7月25日調査の発病株率は12.0%で、平年（10.8%）並であった。

(3) 防除対策

・ 無理な土寄せを避け、他の病害虫防除を徹底するなど、葉先枯れの防止に努める。

・ 防除指針 99 ページ参照

3 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 7月25日調査の被害株率は35.2%で、平年(50.0%)より低かったが、8月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 100～101 ページ参照

4 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ 7月25日調査の被害株率は4.0%で、平年(16.7%)より低かった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 100 ページ参照

5 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - 【多発要因】
 - ・ フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の誘殺数は63.0頭で、平年(39.4頭)よりやや多かった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 101 ページ参照

6 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ アブラムシ類有翅虫の7月1半旬～5半旬の黄色水盤への誘殺数は109.0頭で平年(265.5頭)より少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 67～136ページのアブラムシ類の項参照

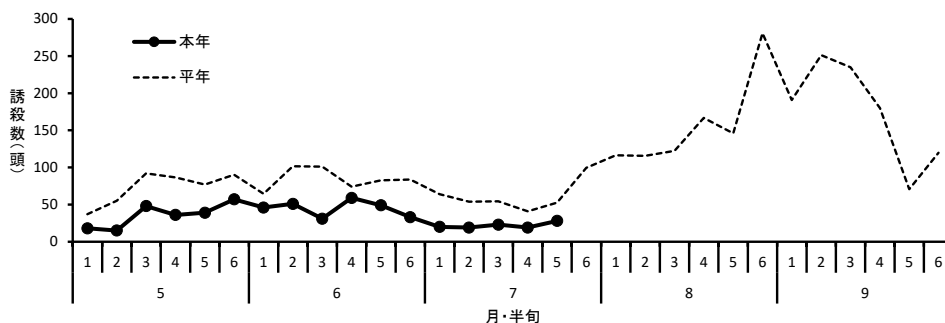


図7 アブラムシ類の黄色水盤トラップ誘殺数推移

7 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数はタマナヤガが21.5頭で平年(33.2頭)よりやや少なく、カブラヤガも58.8頭で、平年(89.6頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植の1週間前までに刈り取る。
- ・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 69～133ページのネキリムシ類の項参照

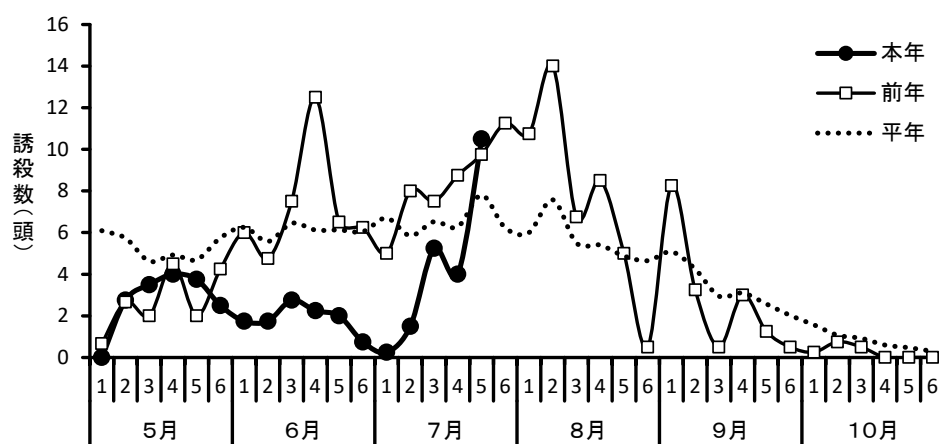


図8 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

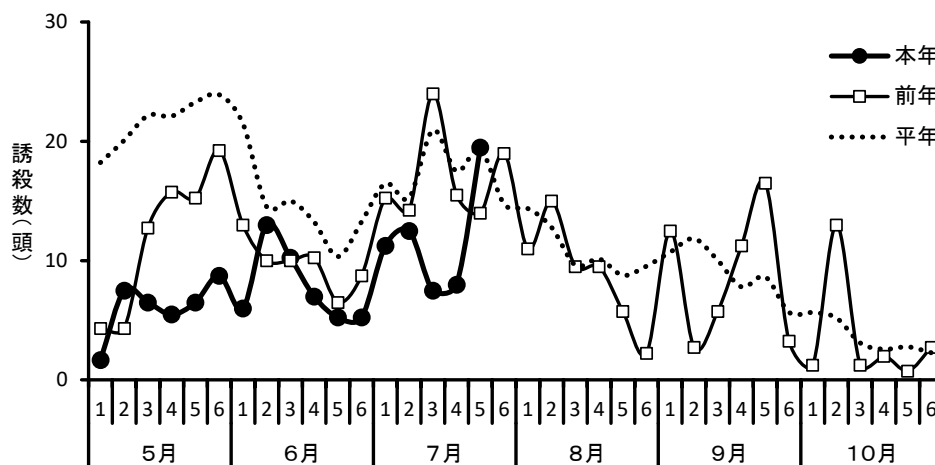


図9 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

IV 果 樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月5半旬～7月2半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は13.5頭で、平年(11.4頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・発生状況に注意し、園地への飛来が見られる場合は効果の高い薬剤（ネオニコチノイド剤、有機リン剤、合成ピレスロイド剤等）を散布する。なお、合成ピレスロイド剤は天敵等に対する影響が強く、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：リンゴ 141、145～146、148～149 ページ、ニホンナシ 156、159～160 ページ、カキ 171 ページ、モモ 174、176 ページ参照

2 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・8月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・薬剤の散布間隔が開き過ぎないように10日間隔での防除を徹底する。
- ・褐斑病の兆候が見られる園地や台風等風雨後には、トップジンM水和剤(1,500倍、収穫前日まで)を散布する。
- ・主枝や垂主枝から発生している新梢を整理するとともに、枝つりや主枝入れを行い、薬剤の到達性を高める。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：141～143、147～148ページ参照

3 リンゴの斑点落葉病

(1) 予報内容 発生量：少ない

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

(3) 防除対策

- ・高温多雨で発生が急増しやすいので、薬剤の散布間隔が開きすぎないように10日間隔での防除を徹底する。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：141～143、147～148ページ参照

4 リンゴのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量はやや多かった。
- ・8月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・薬剤の散布前には、主枝や垂主枝から発生している新梢を整理するとともに、枝つりや主枝入れを行い、薬剤到達性を向上させる。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・高温、乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、発生が見られた場合は速やかに防除する。なお、収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：144、146～147 ページ参照

6 リンゴのカイガラムシ類（ナシマルカイガラムシ）

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
 - ・第2世代歩行幼虫発生盛期は8月初旬と予想されるので、発生が多い園地では遅れないように防除を行う。なお、収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
 - ・被害果は見つけ次第園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：145、148～149 ページ参照

7 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - 【多発要因】
 - ・現在までの発生量はやや多かった。
- (3) 防除対策
 - ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生が多い場合は、幸水の収穫直後にオーソサイド水和剤 80（1,000 倍、収穫3日前まで）を散布する。
 - ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
 - ・防除指針：152～155、158 ページ参照

8 ニホンナシのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる6月5半旬～7月2半旬のナシヒメシンクイの誘殺数は6.0頭で、平年（2.1頭）並であった。
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生が多い園地では、アグロスリン水和剤（2,000倍、収穫前日まで）を散布する。
 - ・防除指針：152、155～156、159～160ページ参照

9 ニホンナシのカイガラムシ類（ナシマルカイガラムシ）

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
 - ・第2世代歩行幼虫発生盛期は8月初旬と予想されるので、発生が多い園地では遅れないように防除を行う。なお、収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
 - ・被害果は見つけ次第園地外に持ち出して処分する
 - ・防除指針：155、159～160 ページ参照

10 ニホンナシのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - 【多発要因】
 - ・現在までの発生量はやや多かった。

- ・ 8月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・ 殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
 - ・ 高温、乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、発生が見られた場合は速やかに防除する。なお、収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
 - ・ 防除指針：157、159～160 ページ参照

1 1 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 現在までの発生量は平年並であった。
 - ・ 8月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・ り病した葉や果房などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・ 発生が見られる園地では、銅水和剤又は硫黄・銅水和剤（収穫前日数は制限なし）を散布する。ただし、夏場高温時にICボルドー48Q及びサンケイ園芸ボルドーを散布すると、葉害が発生するおそれがあるので注意する。
 - ・ 防除指針：162～165ページ参照

1 2 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ フェロモントラップによる6月5半旬～7月2半旬の誘殺数は35.5頭で、平年（36.2頭）並であった。
- (3) 防除対策
 - ・ 発生の多い園地では、コルト顆粒水和剤（2,000～3,000倍、収穫前日まで）を散布する。
 - ・ 防除指針：168、170～171ページ参照

1 3 モモのモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ フェロモントラップによる6月5半旬～7月2半旬の誘殺数は8.5頭で、平年（53.8頭）より少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・ 収穫終了後にサムコルフロアブル10（5,000倍）を散布する。
 - ・ 防除指針：173～176ページ参照

1 4 モモのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ フェロモントラップによる6月5半旬～7月2半旬のナシヒメシンクイの誘殺数は6.0頭で、平年（2.1頭）並であった
- (3) 防除対策
 - ・ 収穫中に発生（新梢の芯折れ）が見られる園地では、ディアナWDG（5,000～10,000倍、収穫前日まで）を散布する。

・防除指針：173～176ページ参照

V 花き・球根

1 きくの黒斑病・褐斑病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・7月25日調査の被害株率は1.3%で、平年(4.0%)より低かった。

(3) 防除対策

・防除指針 193 ページ参照

2 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・アブラムシ類有翅虫の7月1半旬～5半旬の黄色水盤への誘殺数は109.0頭で、平年(265.5頭)より少なかった。

(3) 防除対策

・防除指針 191～210ページのアブラムシ類の項参照

3 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の誘殺数はタバコガが8.7頭で平年(21.6頭)より少なく、オオタバコガも16.4頭で平年(25.3頭)より少なかった。

(3) 防除対策

・防除指針 198～214ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

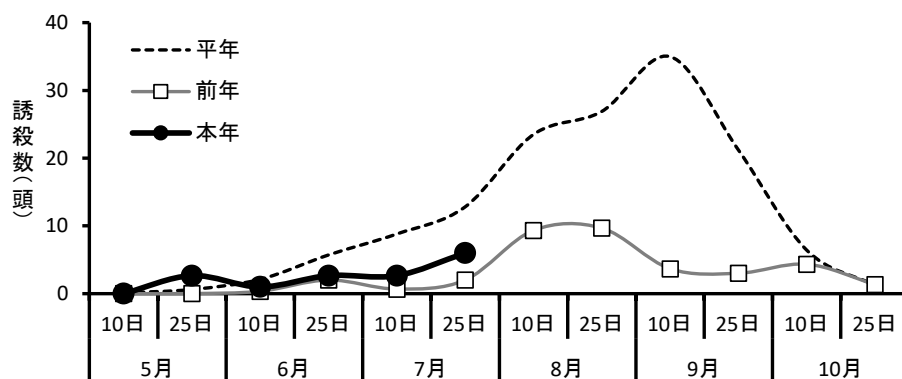


図10 タバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

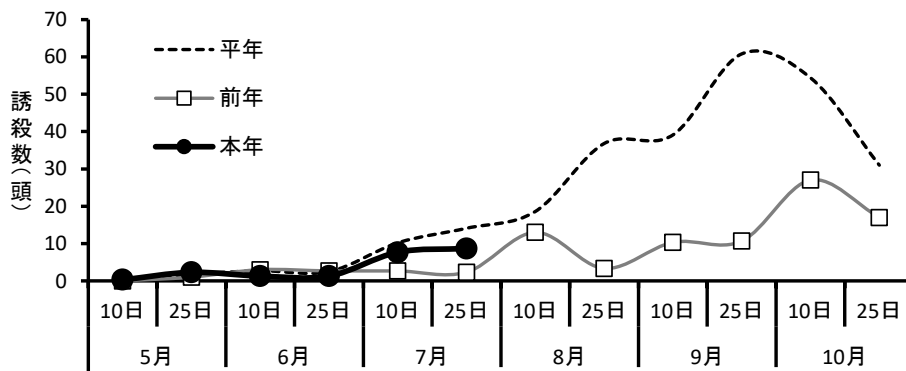


図 11 オオタバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

4 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数はタマナヤガが28.7頭で平年(33.2頭)よりやや少なく、カブラヤガも65.0頭で、平年(89.6頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植の1週間前までに刈り取る。
- ・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 198、211 ページのネキリムシ類の項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

農薬は適用作物以外に使用できません。また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組みが必要です。風向き等にご注意など飛散防止への注意を払いましょう。さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 3か月予報
(予報期間 8月から10月)

7月19日
新潟地方気象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
気温は、高い確率50%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。
気温は、高い確率50%です。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。
気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	北陸地方	08月~10月	20 30 50
		08月	20 30 50
		09月	20 30 50
		10月	20 40 40
降水量	北陸地方	08月~10月	30 30 40
		08月	30 40 30
		09月	30 40 30
		10月	30 30 40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)